

豊田PCB廃棄物処理事業の状況報告について

1 豊田PCB廃棄物処理事業の処理実績

(1) 豊田PCB廃棄物処理施設での処理実績

(表-1) PCB廃棄物の処理量 (中間処理完了ベース)

令和2年6月末現在

	(注1) トランス類 (台)				(注2) コンデンサ類 (台)				(注3) 廃PCB (本)	保管容器 (箱)	純PCB 処理量 (トン)
	大型	小型	車載	合計	健全品	処理手間物	小型機器 (10kg未満)	合計			
H17年度合計 (試運転物含む)	8	33	8	49	1,185	0	0	1,185	33	0	31.5
H18年度合計	19	55	3	77	1,592	13	0	1,605	1	0	63.7
H19年度合計	26	146	19	191	2,227	62	0	2,289	15	0	115.8
H20年度合計	36	242	26	304	3,743	93	0	3,836	30	0	186.5
H21年度合計	40	221	25	286	4,616	137	0	4,753	47	2	199.4
H22年度合計	33	135	19	187	3,528	242	0	3,770	56	10	159.9
H23年度合計	33	85	24	142	3,658	252	0	3,910	28	10	144.1
H24年度合計	40	147	33	220	4,923	203	0	5,126	64	17	217.9
H25年度合計	52	100	49	201	5,778	127	66	5,971	123	23	207.5
H26年度合計	41	50	57	148	4,798	1,031	44	5,873	22	197	214.3
H27年度合計	26	17	61	104	4,405	1,292	487	6,184	27	381	190.6
H28年度合計	27	17	58	102	4,392	825	2,103	7,320	93	396	165.9
H29年度合計	14	17	65	96	3,846	1,096	3,462	8,404	99	450	171.3
H30年度合計	15	29	64	108	2,271	601	4,073	6,945	323	432	112.7
R元年度合計	49	40	61	150	1,344	395	4,084	5,823	300	603	96.2
R2年4月	2	3	9	14	83	13	207	303	19	18	9.4
R2年5月	0	4	2	6	88	6	101	195	26	2	8.6
R2年6月	0	5	6	11	42	14	125	181	15	2	0.0
R2年7月											
R2年8月											
R2年9月											
R2年10月											
R2年11月											
R2年12月											
R3年1月											
R3年2月											
R3年3月											
R2年度合計	2	12	17	31	213	33	433	679	60	22	18.0
合計	461	1,346	(注4) 589	2,396	(※1) 52,519	(※1) 6,402	14,752	(注4) 73,673	1,321	(注4) 2,543	2,295.3

(注1) : トランス類とは、変圧器、変流器、リアクトル等を含む。大型トランスとは重量が1.62 t を超えるもの又は小型トランス解体ラインでは処理できないもの。
(注2) : 健全品コンデンサは連結コンデンサ、サーミアブソーバーを含む。処理手間物は、寸法外・海外製・漏洩品のコンデンサ。
(※1) 大阪事業エリアのPPコンデンサ5,009台(健全品4,587台、処理手間物422台)を含む。
(注3) : 廃PCBとはドラム缶、ペール缶や試薬ビンに入った廃PCB油
(注4) : 他事業所に搬出し処理した車載トランス152台、炭化コンデンサ120台とその保管容器76箱は除く。

(2)PCB廃棄物の受入状況(令和2年6月末現在)

豊田PCB処理事業所の操業開始後、令和2年6月末までのPCB廃棄物の受入実績(試運転含む)は、トランス類2,372台、コンデンサ類76,300台(PPコンデンサ5,009台含む。)、廃PCB油が1,579本、保管容器2,543箱です。

(表-2) PCB廃棄物の受入状況(搬入ベース)

	トランス類(台)			コンデンサ類(台)	廃PCB		保管容器(箱)
	大型	小型	車載		(本)	(kg)	
試運転時 H17年6～8月	1台	5台	8台	588台	33本	7,330kg	—
操業時 H17年9月～							
H17年度合計	11台	42台	—	1,156台	—	—	—
H18年度合計	16台	52台	3台	1,192台	1本	300.0kg	—
H19年度合計	27台	147台	21台	2,449台	30本	8,407.5kg	—
H20年度合計	36台	235台	24台	3,834台	15本	2,703.6kg	—
H21年度合計	40台※①	227台	26台	5,184台	47本	13,321.1kg	2箱
H22年度合計	34台	128台	22台	3,903台	63本	15,402.0kg	10箱
H23年度合計	31台※②	87台	21台	3,657台	33本	9,308.0kg	10箱
H24年度合計	40台※③	156台	34台	5,676台	95本	27,996.7kg	17箱
H25年度合計	43台※④	89台	50台	6,191台	216本	59,601.5kg	23箱
H26年度合計	43台※⑤	53台	60台	6,459台	95本	25,136.5kg	210箱
H27年度合計	28台	19台	60台	7,161台	27本	313.0kg	368箱
H28年度合計	24台	12台	60台	8,076台	105本	5,939.2kg	401箱
H29年度合計	11台※⑥	21台	62台	8,388台	170本	2,287.1kg	456箱
H30年度合計	17台※⑦	47台	64台	6,529台	301本	18,627.4kg	439箱
R元年度合計	15台※⑧	35台	64台	5,377台	298本	39,698.7kg	588箱
R2年4月	0台	5台※⑨	6台	131台	25本	5,134.9kg	15箱
R2年5月	0台	4台	6台	325台	25本	6,132.2kg	4箱
R2年6月	0台	0台	0台	24台	0本	0.0kg	0箱
R2年7月							
R2年8月							
R2年9月							
R2年10月							
R2年11月							
R2年12月							
R3年1月							
R3年2月							
R3年3月							
操業期間合計	416台	1,359台	583台	75,712台	1,546本	240,309.5kg	2,543箱
試運転含む全受入量	417台	1,364台	591台	76,300台	1,579本	247,639.5kg	2,543箱

※①平成21年度:トランス解体部品、愛知県内1個は含みません。
 ※②平成23年度:トランス解体部品、静岡県内6個は含みません。
 ※③平成24年度:トランス解体部品、名古屋市内5個、静岡県内6個、三重県内11個は含みません。
 ※④平成25年度:トランス解体部品、浜松市内8個、静岡県内10個、名古屋市内21個は含みません。
 ※⑤平成26年度:トランス解体部品、愛知県内15個、静岡県内10個、岐阜県内9個、名古屋市内3個は含みません。
 ※⑥平成29年度:トランス解体部品、静岡市内2個、浜松市内5個は含みません。
 ※⑦平成30年度:トランス解体部品、浜松市内2個は含みません。
 ※⑧令和元年度:トランス解体部品、名古屋市内33個、岐阜県内6個、浜松市内1個は含みません。
 ※⑨令和2年度:トランス解体部品、愛知県内5個は含みません。

(3) 豊田PCB処理事業区域(東海4県7市)の受入進捗状況について

JESCO登録実績に対する4県7市の受入状況を把握するため、処理施設への受入ベースで数値を集計しています。

(表-3)届出区域別 登録状況 (試運転物を含みます。大型トランス解体部品は含みません。) ※令和2年6月末時点

区域名称	保管者数	事業場数	トランス台数	コンデンサ台数	廃PCB		保管容器
豊田市	294	307	10台	6,632台	19本	25.8kg	332箱
愛知県	2,632	2,792	354台	14,097台	280本	28,148.6kg	460箱
名古屋市	1,587	1,682	410台	9,358台	453本	45,408.4kg	401箱
豊橋市	278	305	3台	1,213台	47本	356.1kg	49箱
岡崎市	203	227	27台	1,000台	15本	330.2kg	81箱
岐阜県	1,379	1,453	115台	5,117台	68本	4,027.2kg	205箱
岐阜市	312	341	47台	951台	18本	36.6kg	35箱
静岡県	1,803	1,889	116台	9,824台	289本	46,554.2kg	671箱
静岡市	529	578	48台	2,273台	68本	9,376.3kg	46箱
浜松市	528	563	946台	9,888台	143本	31,132.9kg	150箱
三重県	1,173	1,277	382台	13,528台	534本	122,162.4kg	1,025箱
合計:	10,718	11,414	2,458台	73,881台	1,934本	287,558.6kg	3,455箱

(表-4). 届出区域別 受入状況 (試運転物を含みます。大型トランス解体部品は含みません。)

区域名称	保管者数	事業場数	トランス台数	コンデンサ台数	廃PCB		保管容器
豊田市	289	302	10台	6,626台	17本	25.8kg	327箱
愛知県	2,516	2,665	327台	13,530台	227本	26,330.0kg	395箱
名古屋市	1,508	1,592	409台	9,140台	392本	44,647.5kg	373箱
豊橋市	265	291	3台	1,121台	29本	354.2kg	34箱
岡崎市	196	220	27台	988台	9本	56.5kg	36箱
岐阜県	1,316	1,389	113台	4,996台	41本	3,999.2kg	176箱
岐阜市	296	325	47台	926台	15本	36.6kg	35箱
静岡県	1,734	1,816	116台	9,545台	259本	46,089.1kg	653箱
静岡市	506	553	48台	1,991台	65本	9,147.3kg	44箱
浜松市	515	550	897台	9,037台	129本	27,612.4kg	149箱
三重県	1,127	1,228	375台	13,391台	396本	89,341.2kg	321箱
合計:	10,268	10,931	2,372台	71,291台	1,579本	247,639.6kg	2,543箱

(表-5). 届出区域別 進捗率 (試運転物を含みます。大型トランス解体部品は含みません。)

区域名称	保管者	事業場	トランス	コンデンサ	廃PCB		保管容器
豊田市	98.3%	98.4%	100.0%	99.9%	89.5%	99.8%	98.5%
愛知県	95.6%	95.5%	92.4%	96.0%	81.1%	93.5%	85.9%
名古屋市	95.0%	94.6%	99.8%	97.7%	86.5%	98.3%	93.0%
豊橋市	95.3%	95.4%	100.0%	92.4%	61.7%	99.5%	69.4%
岡崎市	96.6%	96.9%	100.0%	98.8%	60.0%	17.1%	44.4%
岐阜県	95.4%	95.6%	98.3%	97.6%	60.3%	99.3%	85.9%
岐阜市	94.9%	95.3%	100.0%	97.4%	83.3%	99.9%	100.0%
静岡県	96.2%	96.1%	100.0%	97.2%	89.6%	99.0%	97.3%
静岡市	95.7%	95.7%	100.0%	87.6%	95.6%	97.6%	95.7%
浜松市	97.5%	97.7%	94.8%	91.4%	90.2%	88.7%	99.3%
三重県	96.1%	96.2%	98.2%	99.0%	74.2%	73.1%	31.3%
合計:	95.8%	95.8%	96.5%	96.5%	81.6%	86.1%	73.6%

【参考資料】令和元年12月末時点の受入進捗状況

(表-3)届出区域別 登録状況 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。) ※令和元年12月末現在

区域名称	保管者数	事業場数	変圧器台数	コンデンサー台数	廃PCB		保管容器
豊田市	291	304	10台	6,627台	17本	25.8kg	332箱
愛知県	2,579	2,738	349台	14,045台	270本	28,147.8kg	428箱
名古屋市	1,543	1,637	410台	9,279台	434本	45,340.3kg	404箱
豊橋市	271	297	3台	1,201台	40本	354.5kg	47箱
岡崎市	199	223	27台	993台	15本	329.6kg	81箱
岐阜県	1,358	1,432	120台	5,079台	41本	3,999.2kg	202箱
岐阜市	307	336	47台	946台	18本	36.6kg	36箱
静岡県	1,770	1,856	116台	9,745台	279本	46,478.8kg	699箱
静岡市	515	564	48台	2,246台	66本	9,475.3kg	46箱
浜松市	525	560	946台	9,884台	130本	27,591.4kg	150箱
三重県	1,161	1,263	375台	13,513台	441本	99,524.5kg	1,009箱
合計:	10,519	11,210	2,451台	73,558台	1,751本	261,303.7kg	3,434箱

(表-4)届出区域別 受入状況 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

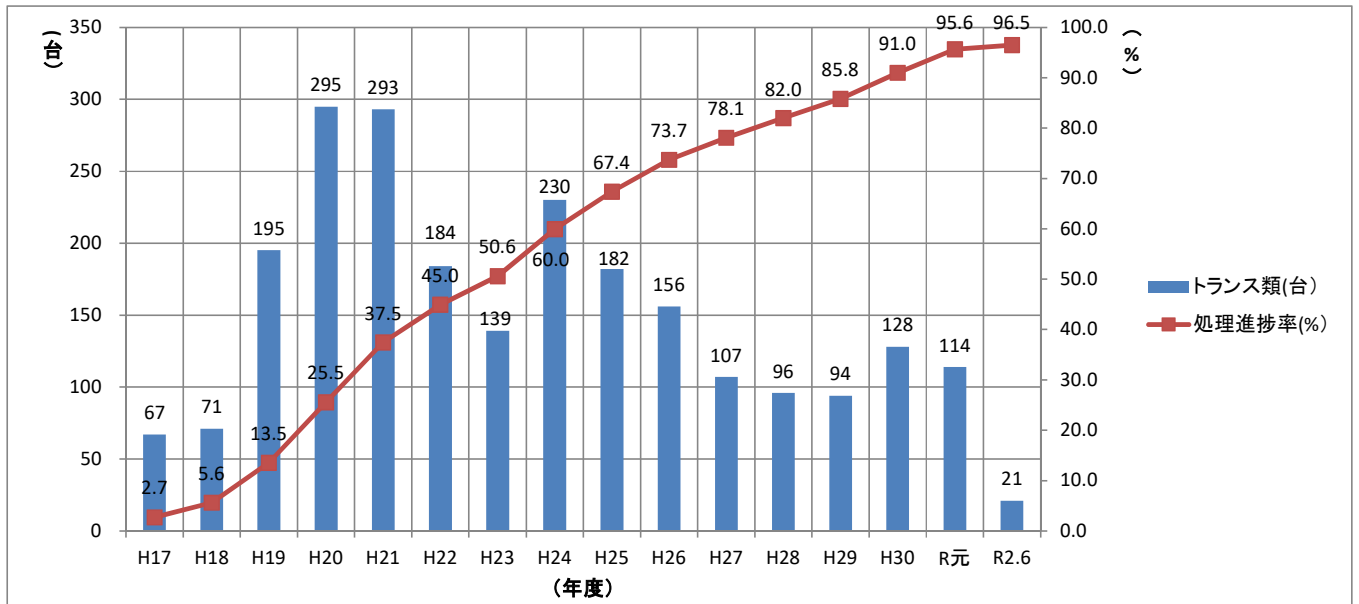
区域名称	保管者数	事業場数	変圧器台数	コンデンサー台数	廃PCB		保管容器
豊田市	289	302	10台	6,625台	17本	25.8kg	327箱
愛知県	2,448	2,591	318台	13,311台	220本	26,040.9kg	363箱
名古屋市	1,475	1,557	402台	8,692台	378本	44,641.5kg	331箱
豊橋市	258	284	3台	1,108台	27本	2.2kg	30箱
岡崎市	193	217	27台	906台	7本	54.4kg	20箱
岐阜県	1,296	1,367	98台	4,947台	29本	3,592.3kg	171箱
岐阜市	293	322	47台	922台	15本	36.6kg	24箱
静岡県	1,681	1,762	113台	9,319台	227本	45,516.7kg	591箱
静岡市	487	534	48台	1,960台	53本	9,146.8kg	43箱
浜松市	511	546	862台	8,417台	115本	24,070.9kg	149箱
三重県	1,107	1,206	369台	13,004台	316本	69,331.0kg	286箱
合計:	10,038	10,688	2,297台	69,211台	1,404本	222,459.1kg	2,335箱

(表-5)届出区域別 進捗率(「表-4 受入状況」÷「表-3 登録状況」)

区域名称	保管者	事業場	変圧器	コンデンサー	廃PCB		保管容器
豊田市	99.3%	99.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.5%
愛知県	94.9%	94.6%	91.1%	94.8%	81.5%	92.5%	84.8%
名古屋市	95.6%	95.1%	98.0%	93.7%	87.1%	98.5%	81.9%
豊橋市	95.2%	95.6%	100.0%	92.3%	67.5%	0.6%	63.8%
岡崎市	97.0%	97.3%	100.0%	91.2%	46.7%	16.5%	24.7%
岐阜県	95.4%	95.5%	81.7%	97.4%	70.7%	89.8%	84.7%
岐阜市	95.4%	95.8%	100.0%	97.5%	83.3%	100.0%	66.7%
静岡県	95.0%	94.9%	97.4%	95.6%	81.4%	97.9%	84.5%
静岡市	94.6%	94.7%	100.0%	87.3%	80.3%	96.5%	93.5%
浜松市	97.3%	97.5%	91.1%	85.2%	88.5%	87.2%	99.3%
三重県	95.3%	95.5%	98.4%	96.2%	71.7%	69.7%	28.3%
合計:	95.4%	95.3%	93.7%	94.1%	80.2%	85.1%	68.0%

(グラフー1)東海4県内のPCB廃棄物処理進捗状況(令和2年度6月末)

【トランス類】 受入ベース

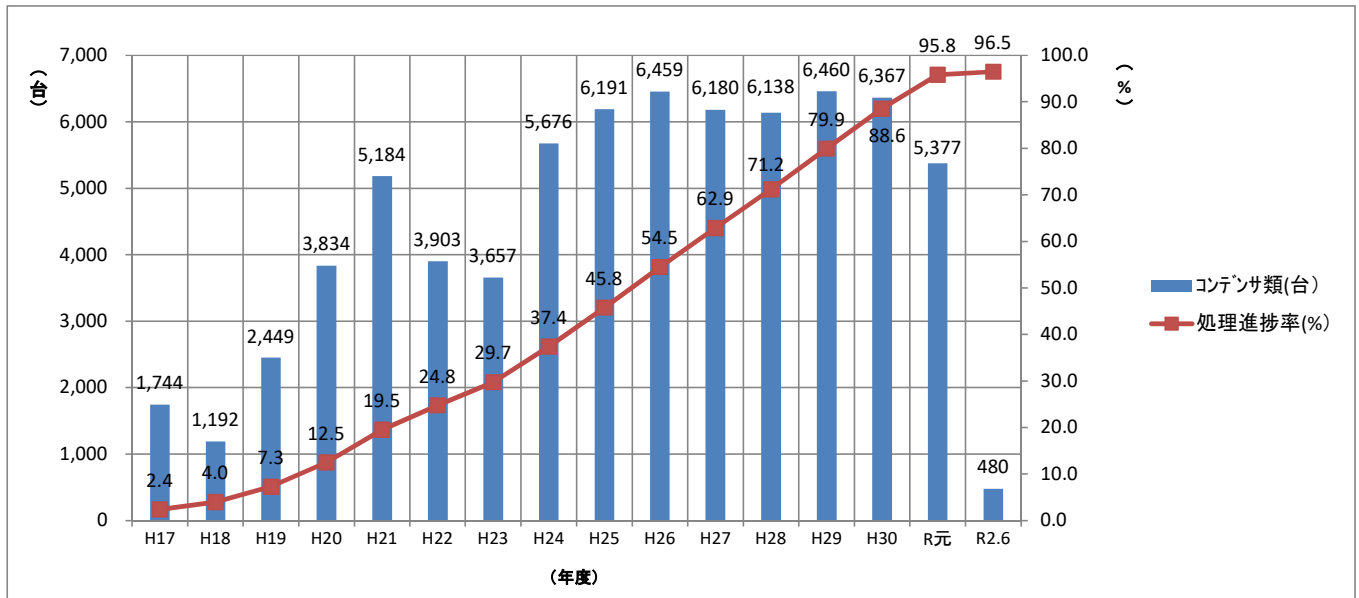


年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2.6	合計
トランス類(台)	67	71	195	295	293	184	139	230	182	156	107	96	94	128	114	21	2,372
処理進捗率(%)	2.7	5.6	13.5	25.5	37.5	45.0	50.6	60.0	67.4	73.7	78.1	82.0	85.8	91.0	95.6	96.5	

※登録量(分母):令和2年度6月末までのJESCO登録量=2,458台(地域間移動の車載トランスは除く。)

※実績量には、地域間移動の車載トランスは除く。

【コンデンサ類】受入ベース



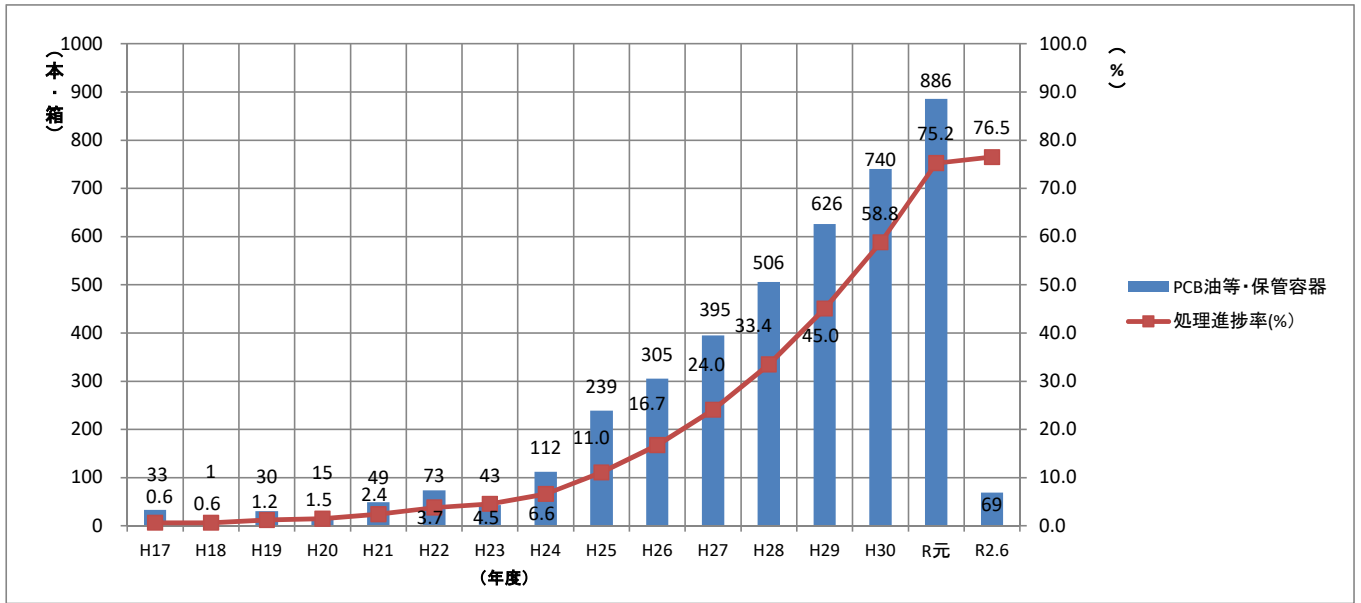
年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2.6	合計
コンデンサ類(台)	1,744	1,192	2,449	3,834	5,184	3,903	3,657	5,676	6,191	6,459	6,180	6,138	6,460	6,367	5,377	480	71,291
処理進捗率(%)	2.4	4.0	7.3	12.5	19.5	24.8	29.7	37.4	45.8	54.5	62.9	71.2	79.9	88.6	95.8	96.5	

※登録量(分母):令和2年度6月末までのJESCO登録量=73,881台(地域間移動の炭化コンデンサは除く。)

※実績量には、地域間移動量の炭化コンデンサは除く。

※大阪事業からのPPコンデンサは除く。

【PCB油等及び保管容器】 受入ベース



年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2.6	合計
PCB油等・保管容器	33	1	30	15	49	73	43	112	239	305	395	506	626	740	886	69	4,122
処理進捗率(%)	0.6	0.6	1.2	1.5	2.4	3.7	4.5	6.6	11.0	16.7	24.0	33.4	45.0	58.8	75.2	76.5	

※PCB油類には、保管容器を含む。

※登録量(分母): 令和2年度6月末までのJESCO登録量=5,389本・箱(地域間移動の炭化コンデンサの保管容器は除く。)

※実績量には、地域間移動量の炭化コンデンサの保管容器は除く。

2 周辺環境への影響の状況

(表-1) 排出源モニタリング

操業開始から令和2年6月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		令和元年	令和2年		管理目標値等	単位
				10月	1月	4月		
排気	PCB	1~4系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01	mg/m ³ N
		5系	0.001未満	0.001未満	0.001未満			
		6系	0.001未満	0.001未満	0.001未満			
	ダイオキシン類	1~4系	0.026 (H18.10)	0.000031	0.00021	0.000017	0.1	ng-TEQ/m ³ N
		5系	0.000052 (H18.9)	0.000014	0.0000048	0.000017		
		6系	0.000058	0.000000072	0	0.0000049		
ベンゼン	1~4系	2.2 (H22.10)	0.5未満	0.5未満	0.5未満	50	mg/m ³ N	
	3-2系	71 (H19.1)	0.5未満	0.5未満	0.5未満			
排水 (放流口)	PCB	0.0005未満		0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	mg/L	
	ダイオキシン類	0.13 (H19.2)		0.011	0.0081	0.014	5	pg-TEQ/L
騒音	騒音レベル	昼間	69 (H19.1)	—	65	—	70	dB(A)
		夜間	68 (H19.1)	—	65	—	65	
振動	振動レベル	昼間	49 (H21.1)	—	44	—	65	dB
		夜間	50 (H31.1)	—	43	—	65	
悪臭	アセトアルデヒド	0.039 (H20.10)		0.006	—	—	0.05	ppm
	トルエン	0.9未満		0.9未満	—	—	10	ppm
	キシレン	0.1 (H18.9)		0.1未満	—	—	1	ppm

(表-2) 周辺環境モニタリング

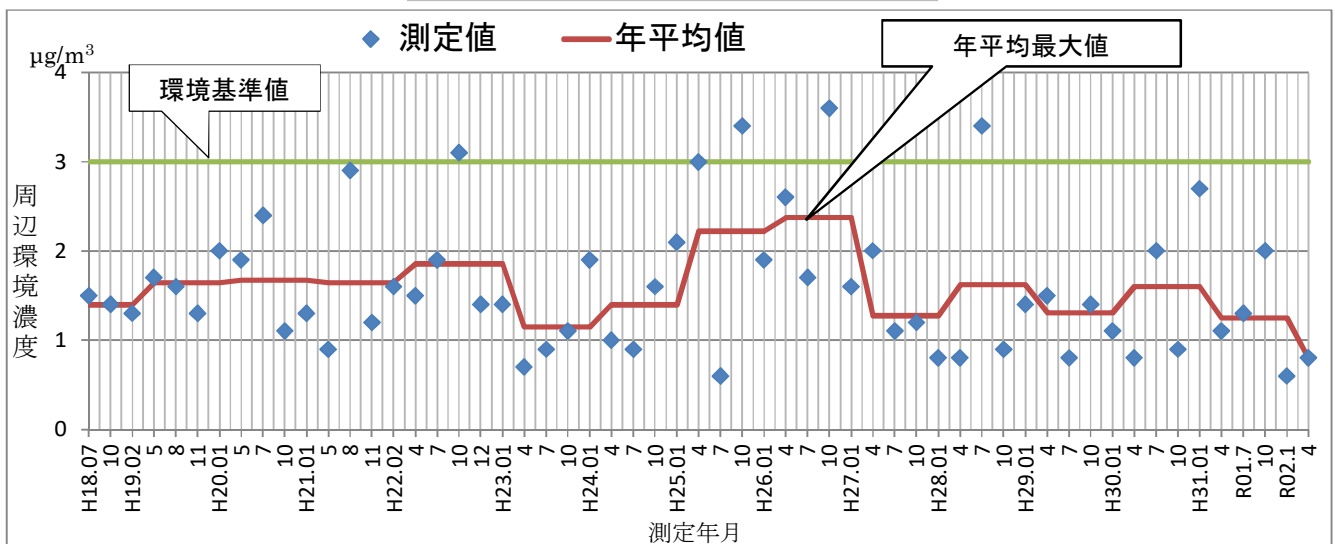
操業開始から令和2年6月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		令和元年	令和2年		環境基準値等	単位
				10月	1月	4月		
大気	PCB	0.0082 (H29.7)		0.00069	0.00026	0.0017	年平均0.5 (注1)	μg/m ³
	ダイオキシン類	0.057 (H20.1)		0.020	0.028	0.010	年平均0.6 (注2)	pg-TEQ/m ³
	ベンゼン	年平均0.0024 (H26年度)		0.0020	0.0006	0.0008	年平均 0.003(注2)	mg/m ³
土壌	PCB	0.0005未満		0.0005未満	—	—	検出されないこと (0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	1.5 (H23.10)		1.3	—	—	1000	pg-TEQ/g
地下水	PCB	0.0005未満		0.0005未満	—	0.0005未満	検出されないこと (0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	0.075 (H19.2)		0.040	—	0.062	1.0	pg-TEQ/L

(注1) 評価基準値「PCB等を焼却処分する場合における排ガス中のPCBの暫定排出許容限界について」(昭和47年12月22日付 環境庁大気保全局長通達)で示される環境中のPCB濃度。

(注2) ダイオキシン類及びベンゼンの大気環境基準は、豊田施設の存在する工業専用地域には適用されません。

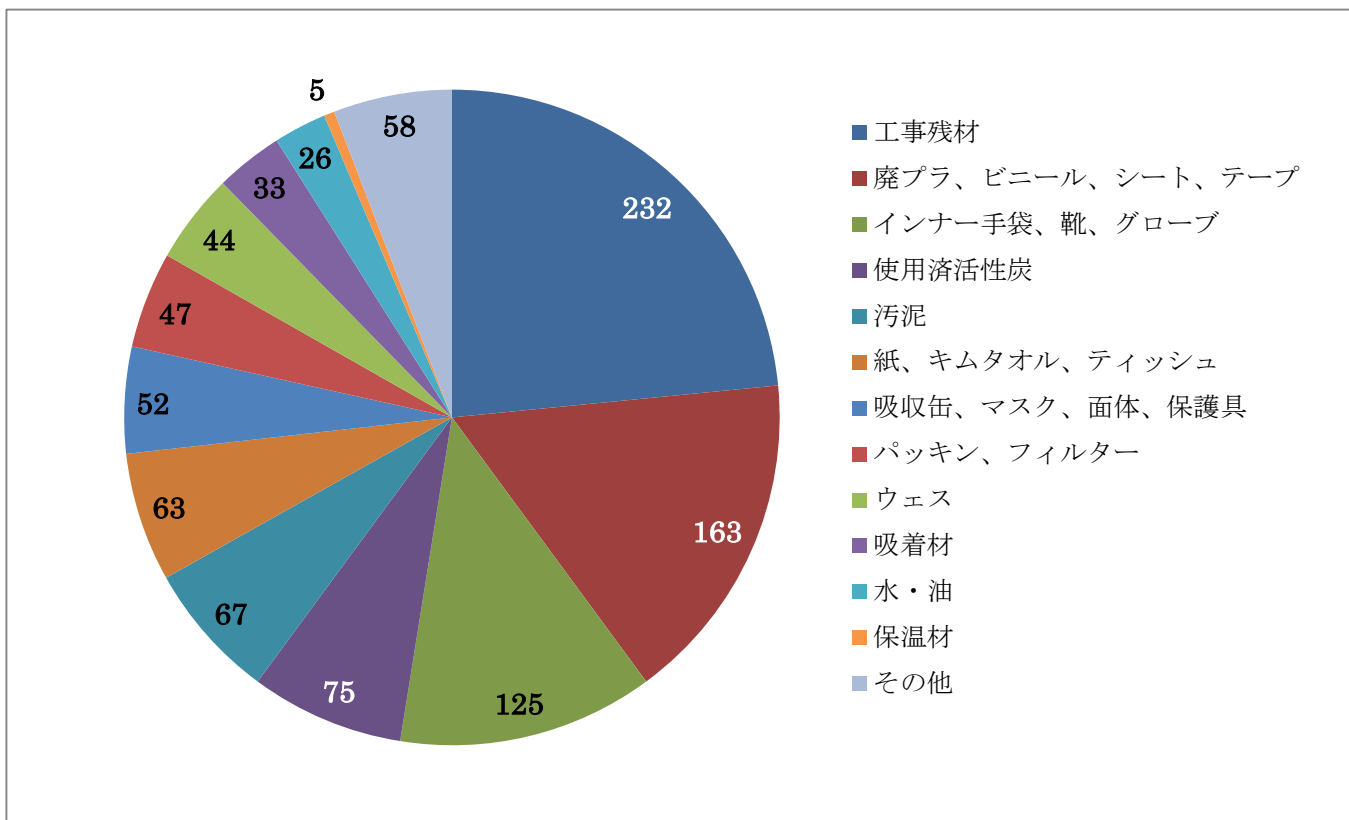
<参考> 周辺環境中のベンゼン濃度の推移



3 運転廃棄物の保管及び処理の状況

① 運転廃棄物入りドラム缶の保管状況（令和2年6月末）

合計 990 本（内訳は下図の通り）

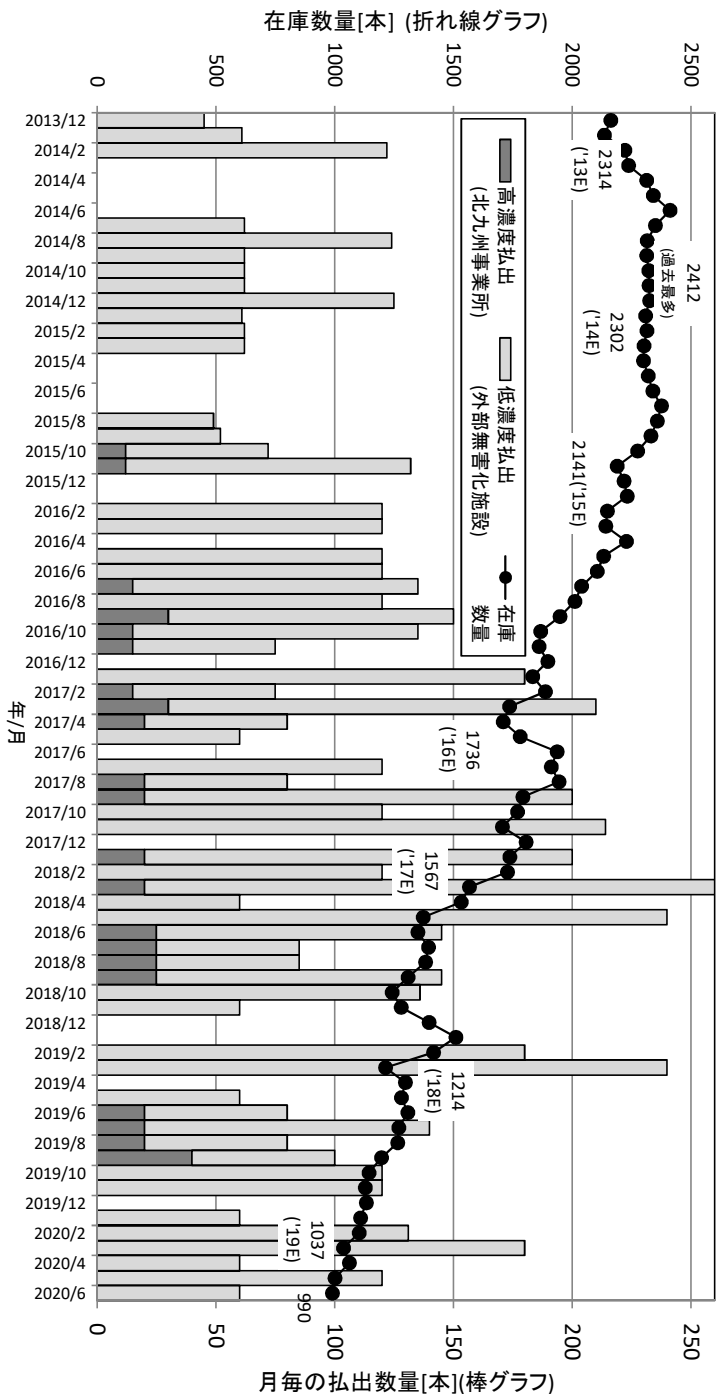


② 運転廃棄物の所内処理及び外部処理の実績（令和2年6月末）

年度	事業所内処理			北九州事業 所処理委託 高濃度品 (注1)	外部処理（ドラム缶数）	
	防護服	ポリ袋	廃油		実証試験	無害化認定業者処理 委託(低濃度品(注1))
H23年度	14,400着	640kg	2,643L	—	—	—
H24年度	15,750着	700kg	1,743L	—	108本	—
H25年度	18,000着	549kg	373L	—	74本+約 204本相当	306本+約62本相当
H26年度	17,325着	666kg	526L	—	—	550本+約153本相当
H27年度	18,000着	684kg	1,212L	24本	—	521本
H28年度	15,000着	540kg	584L	120本	—	1,200本
H29年度	19,250着	875kg	271L	100本	—	1,354本
H30年度	12,850着	711kg	777L	100本	—	1,279本
R元年度	13,775着	905kg	141L	100本	—	971本
R2年度	1,700着	120kg	0L	0本	—	240本

(注1) 低濃度品：PCB含有量 5,000mg/kg以下、高濃度品：PCB含有量 5,000mg/kg超

豊田事業所 運転廃棄物ドラム缶在庫数量の推移 (2013/12～2020/6)



4 収集運搬について

前回の監視委員会以降、令和2年度8月末までに発生した収集運搬及び保管時に伴うトラブル事例は以下の通りです。

1. 収集運搬機器からの漏洩について

豊田PCB処理事業所に受け入れを行なった際に確認された漏洩事例は発生しておりません。

2. 保管中機器からの漏洩について

豊田PCB処理事業所で搬入後、保管中に保管庫内にて漏洩が確認された事例は発生しておりません。

以上

5 地域とのコミュニケーションについて

地域の皆様へは、JESCOホームページを始め、事業だよりや施設見学等を通じて、積極的な情報公開に努めており、その実績は以下のとおりです。

(1) 施設見学について

①見学の実績

※令和2年度は、6月30日現在

	市民関係		行政関係		企業関係		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
H29年度	4	54	7	43	25	104	36	201
H30年度	4	38	13	100	10	31	27	169
R元年度	0	0	7	111	12	28	19	139
R2年度	0	0	0	0	0	0	0	0

*新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年3月3日～7月12日まで見学者の受入れを中止。

②見学に関するアンケートの集計結果(平成29年4月～令和2年6月まで、見学者505名)

質問1 説明は、わかりやすかったですか? (回答456人)			
	①わかりやすかった	②普通	③わかりにくかった
	91% (416人)	9% (39人)	0% (1人)
質問2 説明者の対応はいかがでしたか? (回答456人)			
	①良い	②普通	③良くない
	93% (422人)	7% (31人)	1% (3人)
質問3 本日の見学会は、参考になる内容でしたか? (回答456人)			
	①参考になる	②わからない	③参考にならない
	97% (443人)	3% (12人)	0% (1人)

(2) 関係自治区への情報提供

①年末年始の挨拶

施設周辺及び逢妻男川流域の19自治区を訪問し、年末年始の挨拶と事業の進捗状況等を説明しました。

- ・平成30年度 1月に19自治区を訪問しました。
- ・令和元年度 1月に19自治区を訪問しました。

②新任自治区長への挨拶

新たに区長に就任された自治区を訪問し、年度始めの挨拶と事業概要等を説明しました。

- ・令和元年度 新所長の着任により、5月に19自治区を訪問しました。
- ・令和2年度 5月29日、6月10日～15日に14自治区を訪問しました。

(3) JESCO地域協議会(平成25年度設置)

- ・目的：施設周辺自治区への情報発信と意見交換を行い、リスクコミュニケーションの推進を図ります。
- ・構成：事業所立地及び近隣の7自治区
(樹木、三軒屋、広久手町、広久手、本地新田、深田山、土橋の各自治区)
- ・令和元年度 9月10日に開催しました。
- ・令和2年度 9月に開催する予定です。

(4) 豊田PCB廃棄物処理事業だよりの発行(毎月1回)

- ・令和元年度 4月の180号～3月の191号まで、1年間に12回発行しました。
- ・令和2年度 4月の192号～6月の194号まで、毎月1回発行しています。

6 トラブルについて

前回の監視委員会から、令和2年度8月末までの間、労働災害及び漏洩等に伴うトラブルは以下の通り発生しておりません。

(1) 労働災害

平成30年4月8日の駐車場内での自転車の転倒災害を最後に休業災害は発生しておりません。

(2) 漏洩等

平成30年11月22日のダイヤフラム弁からの漏洩を最後に漏洩等のトラブルは発生しておりません。